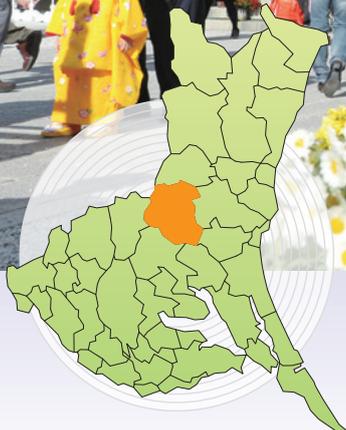


## 第27回 支店長のわがまち紹介

# 茨城県笠間市

## 農業の推進強化と世代が循環する街づくり

笠間の菊まつり 写真提供：笠間市



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第27回は、笠間市です。筑波銀行は、笠間市内に3か店の営業店を設置し、笠間市の皆さまと密接な関係を築いています。友部支店長の谷田部高志が、笠間市長 山口伸樹氏にお話を伺いました。

### ●笠間市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか

本市は、2本のJRの路線と2本の高速道路が友部地区で結節する広域交通網に恵まれた交通の要衝です。JR水戸線・JR常磐線の駅が6つ、北関東自動車道・常磐自動車道のインターチェンジが3つあります。

観光が産業の中心で、笠間焼や日本三大稲荷の笠間稲荷神社をはじめとする多数の旧所名跡が点在しています。

年間を通じて多数のイベントも開催されています。特に、5月のゴールデンウィーク期間中に開催される「笠間の陶炎祭」は250名弱の窯元・陶芸家が個性的な店を出展し、延べ51万人も来場する本市を代表するイベントで、県内でも集客力はトップクラスです。

農業も盛んで、特に栗は全国有数の生産量を誇ります。また、稲田御影石を中心とする石材業も伝統があります。

平成18年3月に笠間市、友部町、岩間町が合併しました。3地区の特徴は全く異なっており、それぞれに合ったまちづくりが必要です。

笠間地区は観光業を中心に、笠間焼と石材が主要な産業で、盆地なので寒暖の差がはっきりした気候です。

友部地区は人口が集中する居住の中心エリアであり、市街地を中心に人口が増加しています。

岩間地区は首都圏から本市への玄関口で、工業団地への企業立地も進んでいます。温暖な気候を活かした農業も盛んで、梨、栗、柿などの果樹栽培と、酪農が主に行われています。

### ●今後の展望についてお聞かせください

平成27年5月18日、東洋大学と提携し、同大学白山キャンパスのカレッジコート（学生食堂）にアンテナショップ「かさま結<sup>ゆい</sup>マール」をオープンしました。本市の農産物を中心とした昼食メニューの提供、デザートやスイーツなどの販売、農産加工品の販売・PRを行い、地場農産物の生産・消費拡大、首都圏の若年層に対する認知度向上を図ることを目的に、笠間市農業公社が運営しています。笠間出身の子どもたちは、高校卒業後本市から出るとそのまま戻らないことが多いようです。学生時代を笠間以外で過ごした子ども達により多く本市に戻ってきてもらい、次の代を育む世代の循環を保ちたいと考えています。

本市は、「まち・ひと・しごと創生」の取組みが始まる1年ほど前から、「人づくり、街づくり、モノづくり」を重点施策に掲げてきました。人口減少により地域間の競争は激しくなっています。また、人口減少が進む中、地域のコミュニティが

維持できなくなる恐れがあり、行政サービスの維持と地域の活力を保つ施策を実施する必要があります。自前で取り組むこと、広域で連携して取り組むことを組み合わせる実施します。住民が快適で満足感を持って生活できるようなきめ細かいサービスを住民との連携のもと実施します。

本市の存在感を高めるため、様々な発信を行います。東洋大学との「かさま結マール」の取組みはその一環ですが、隣県の益子市や茂木町との提携や、水戸市を中心とした県内9つの自治体との広域連携による取組みも重要です。



かさま結マール 写真提供:笠間市

農業も強化します。農業は成長産業であり、本市には意欲ある若手農業者や新規就農者がいます。

今後の農業に必要なことは、離農した人の資産を次の代、もしくは他の農家に移していくことです。現在、高齢者はとても元気です。例えば、60歳で定年退職した人が新規就農して、75歳ぐらいまで元気で活動できる可能性は大いにあります。このような人が耕作放棄農地を活用すれば農業は衰退しません。農家の後継者不足よりも、荒れていく農地の方が問題です。長い年月、大切に育てられた農地には良い実がなるのに、離農した人が手放さないため、いたずらに荒れていくのです。「農家は家族経営」という固定観念を変え、家族以外にも引き継ぐようにして農家を守りたいと考えています。

農地を手放したい離農者と、引継ぎたい農家があれば、次に必要なのは資金です。農家への融資の方法を明確に分かりやすいものにするとう農業も変わることができると考えています。

本市の産業は、創意工夫により成長させることが可能です。地場産業である笠間焼を産業として

確立し、観光としても発展させることで市のイメージアップを図ります。食器だけでは消費者に受け入れられなくなるので、高温直火に耐える「笠間火器」を開発し、炊飯鍋やタジン鍋をつくりました。石材業も、国産御影石への根強い需要を掘り起こし、製品開発して推進します。

企業も行政も人が第一です。新卒で採用して、一から育てていくことが人材育成の基本です。本市への就職希望倍率は、少子化により減少すると

予想されます。市では、多数の大学の就職課に本市をPRする営業を行い、本市のポスターを貼って優秀な人材を確保する活動をしています。

また、本市の企業一覧を作成して、本市から離れている学生等に配付し、本市での就職を推進する活動も実施し、企業にも行政にも役に立てたいと考えています。

#### ●筑波銀行に期待することはありますか

市内の事業所への金融面での支援を期待しています。国でも創業支援に力を入れています。事業を始めたい人にとって重要なのは資金です。借りた資金はきちんと返す前提で、借りやすい制度融資等の導入をお願いしたいと思います。

市長に就任して10年ほど経ちます。就任期間前半は指定金融機関とのお付き合いしかありませんでしたが、後半は様々な金融機関が行政の事業に関わり、関係が広がりました。

金融機関と上手につき合い、金融機関が培ってきたノウハウや人材を提供してもらい、提携してよりよい活動をしていきたいと考えています。例えば、笠間焼や農産物の輸出推進のアドバイスや、ビジネスマッチングは金融機関だからこそできる業務です。



笠間火器 写真提供:笠間市

(文責:筑波総研株式会社 主任研究員 國安 陽子)



山口市長



谷田部支店長